保健室

清水町立清水中学校

養護教諭　福田敬子

本校は、駿東の南側に位置し、近くには富士山の雪解け水が湧き出る柿田川の清流が流れています。今年はクラス数も増え、21クラス637名の生徒たちが通学しています。

「今どきの中学生は…」「最近の子どもは…」という言葉をたいへんよく聞きますし、私自身も頻繁に使っています。しかし、先輩教師に聞くと、それはいつの時代も言われていることだと言います。果たして、「今どきの子どもたち」に何が起こっているのでしょうか？また、めまぐるしく社会が変化する中、子どもたちに何を伝えていけばいいのでしょうか？そんな視点を持ちながら、保健室に訪れる子どもたちを見つめてみました。

ケガの予防を全校に訴えたいと保健体育委員会の生徒に投げ掛けたところ、インターネット等を使い、ケガが起こりやすい条件や心理状態、体のメカニズム等をすぐに調べ、まとめてきました。

「今どきの子どもたち」は情報を集めたり、それを伝えたりする力はたいへん優れています。しかしその反面、あまりにも多くの情報が入りやすく、発信しやすいため、情報に振り回されている傾向もあります。

特に携帯電話の急激な普及により、子ども同士のトラブルが表に出ず、複雑になっていることも事実です。ここ数年、保健室で行う相談活動の中に、携帯電話やブログに関する内容が非常に増えています。

私たち大人が作り上げた高度情報化社会の中で、子どもたちの可能性を応援し、課題を追求する難しさと必要性を強く感じています。

医療の進歩や、薬が開発される中、個人の予防法は数十年前とほとんど変わりません。インフルエンザ等の予防のために、新聞等メディアでも、「予防の基本はうがい・手洗いの励行」と訴えています。

保健室に訪れる多くの子どもたちも、特別な薬を与えるわけではなく、額に手を当てて「辛かったね。」と声をかけたり、寄り添って話を聞いたりするだけで、「何か、治ったよ。」と笑顔で教室に戻っていきます。

医は仁術という言葉を実感する毎日です。〝変わらないもの〟と〝変わっていくもの〟を見極め、大切にしながら、「今どきの子どもたち」とたくさん接していきたいと感じています。

三島市立山田小学校

養護教諭　日下さおり

本校は児童数557名で、北側は富士山、南側は三島市内はもとより遠く田方平野、西側は沼津市方面を一望できる高台にあります。子どもたちは素直で明るく、伸び伸びと学校生活を送っています。

けれど、アスペルガー症候群、LD、ADHDなどの診断名がついている児童や診断名はついていないものの、周りの子とうまくいかずに困っている子どもや学習についていくことが難しくて困っている子どもなど、特別な支援を必要とする児童が増えているように感じています。

そこで、本校では、そんな児童にいち早く気付き、適切な支援ができるよう、特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーなどの様々な職員が連携して支援を行っています。

本校の支援体制の特徴として、子どもに関わる関係者が多いことと、情報交換や共通理解のために関係者が集まる場を多く設けていることが挙げられます。このような取り組みにより、子どもたちに目が行き届き、より多くの困っている子どもに適切な支援をすることができるようになりました。

担任が決して一人で抱え込まないよう、相談しやすい雰囲気となっており、まさに職員全体がひとつのチームとなって子どもたちを支援していると感じます。

そして、現在、私もチームの一員として、広汎性発達障害と診断された保健室登校児に関わっています。保健室に抵抗感なく入室し、安心して過ごせる場となるよう、子どもとの信頼関係を築くことに努めています。

また、保護者との情報交換を密に行い、保護者から情報を得たり、保護者の思いを把握して担任に伝えたりする役割を担っています。

時には子どもの気持ちの変化を敏感にキャッチし、みんなと教室で過ごすよう、タイムリーな誘いかけも行っています。

そのほか養護教諭は全校児童に広くかかわる存在であるという特徴を生かし、来室する児童だけでなく、あまり保健室に来室しない児童についても、教室での普段の様子や休み時間の様子などを観察し、できるだけ多くの情報を収集するよう努めています。

現在、チームで支援することの大切さを感じるとともに、養護教諭ならではの視点や役割が重要であると実感しています。今後、さらに子どもたちにより良い支援ができるよう、自分自身の能力を高めていきたいと思っています。

浜松市総合水泳場

古橋廣之進先生ゆかりの浜松市水泳場「ToBiO」の施設などを紹介

古橋廣之進記念浜松市総合水泳場『ToBiO』は県内2番目の国際水泳場として本年2月7日オープンした。館内一階には古橋廣之進さんの偉業を伝える日本水泳の歴史資料室が併設されている。

古橋さんは昭和3年雄踏町（現・浜松市）に生まれ、早くから水泳の才能を開花させ、小学六年の時には自由形で学童新記録を出し、「豆魚雷」と呼ばれた。

旧制中学時代、勤労動員での作業中に左手中指を切断するという事故に遭遇し、「もう泳ぎはできない」と挫折を味わうが、持ち前の負けじ魂と努力で克服する。大学に進学し、水泳を再開する。

歴史資料室にある古橋先生の胸像

戦後は次々と世界記録を上回る記録を出すが、わが国が国際水泳連盟から除名されていたため、世界記録として公認されなかった。

昭和24年国際水泳連盟への復帰が認められ、招待された全米選手権の自由形三種目で世界新記録を樹立し、「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた。

『ToBiO』は「国際大会も開催可能な競技施設としての機能と健康増進・レジャー・リラクゼーションエリア」としての機能を併せ持つ、今までにない新しいタイプの水泳場として子供から高齢者まで幅広く利用ができる。

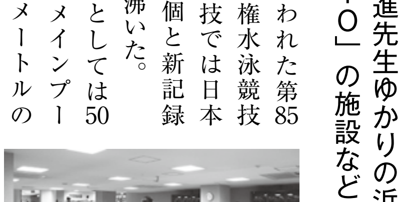
メインプール

4月に行われた第85回日本選手権水泳競技大会競泳競技では日本新記録二〇個と新記録ラッシュに沸いた。

主な施設としては50メートルのメインプール、水深5メートルの飛び込みプール、25メートルのサブプールが設けられており、各種大会や一般の利用など用途に合わせた利用が可能となっている。

スタジオ

2階にはメタボ改善やダイエットなどの健康増進プログラムを実施できるジムとスタジオが完備されている。



ジム

「高齢者の利用が多いです。元気を維持して、より楽しく健康でいるために『ToBiO』を大いに利用してほしい」と館長の吉田さんは語る。

週3回ジムを利用しているという近所に住む八十四歳の男性は「そりゃあ家でごろごろしているより、ここに来て汗を流すほうが気持ちがいいよ。背筋を鍛えているおかげで曲がっていた腰が伸びたよ」と話してくれた。

皆さんも『ToBiO』で一緒に健康習慣をスタートしませんか。

詳しくは直接お問合せください。

tel:053-489-5463
http://www.hgw.co.jp/

学校保健セミナー・産業保健セミナー開催のお知らせ

当協会が静岡県学校保健会と共催して行う学校保健セミナー及び当協会主催の産業保健セミナーには毎回大勢ご参加をいただいておりますが、本年度は、10月1日（木）「グランシップ」で開催される「予防医学事業推進全国大会」の講演を学校保健セミナー及び産業保健セミナーと兼ねて実施させていただきます。医療、人間関係、スポーツ活動をテーマにした講演であり、またとない機会です。皆様のご参加をお待ちしております。

○静岡県立がんセンター総長　山口　建 先生
「一人ひとりのがん対策」
○法相宗大本山薬師寺執事　大谷　徹奘 先生
「幸せの条件～より良い人間関係のために～」
○日本水泳連盟名誉会長　古橋　廣之進 先生
「『集中』して未来へ！～私の歩いた道～」

予防医学事業推進全国大会の概要は一面に掲載してあります。
参加申込みはFAXで9月15日(火)までに
(財)静岡県予防医学協会（セミナー担当）まで

FAX:054-278-7717